

伊藤信孝

チェンマイ大学客員教授・工学部

本報は筆者が滞在を許可されている工学部の宿泊施設に関する記事である。この宿泊施設については以前に既述したが、更に加筆したい。国際交流事業の推進に宿泊施設が大きな役割を果たすことも強調した。加えてこの宿泊施設が学部の施設であり大学レベルのものでないことは注目すべきである。言うまでもなく工学部関係の外来講師や客員教授、非常勤講師、留学生、インターシップなどに参加の短期交換留学生など宿泊客は多種多様である。一般協定を締結している協定校からの来客であれば学部を問わず、急遽宿泊させるといった寛大な処置が取られてきたことも以前に紹介した。2階建ての建物で1階が家族用で4部屋、2階が個室（ホテルで言うシングル）で8部屋ある。もちろん長期の滞在もケース・バイ・ケースで可能である。かつて1年間も無料で滞在した交換留学生が居たことも既に紹介した。筆者はこの宿舎に2008年（かと記憶するが）から滞在している。この宿舎は以前から存在したが、老朽化も手伝って同じ場所にリニューアルして建てられた。その完成と同時に宿泊を許可されてからの滞在になる。いわばこの宿泊施設の管理者的存在でも有る。宿舎についていくらかをあらためて紹介しておく。2階の個室にはシャワーとトイレはなく共同利用である。また基本的に炊事ができる流しが2つ、洗濯機も2台、大きめの冷蔵庫2台、テレビ2台、ポット（湯沸し器）2個、電子レンジ2台が共用である。飲料水も冷却器が2台備え付けてあり、タンクの取り換えで補給する。ちなみに給水は無料である。掃除は定期的に係の女性が施設全体と各部屋を掃除してくれる。

やはり宿泊施設となれば共同利用の部分が必ず出てくる。特に2階の宿泊者にとっては就寝以外は殆ど共用の部分が多い。セキュリティも注意を要する。この種の管理について少々触れる。

1) よくある問題の一つは部屋の鍵を持たずにロックしてしまうことである。問題が起きた時に、どこの誰に連絡をするか、また連絡してもすみやかに合鍵を持ってきてくれるわけではない。特に週末の土日にかかると極めて時間がかかる。担当者、連絡先の電話番号などの告知と周知。

2) 宿泊者の確認。いつからどのような人が宿泊しているのか把握できないとセキュリティにも問題が起きる。すなわち勝手に、あるいは一時的に友人として入ってきているのか、宿泊者なのかの確認ができないと物品の紛失や盗難などに繋がる。機器が損壊しても、誰が使用している時にそうなったのかなどを報告するシステムが要る。同じ時期に同じ期間を同じ宿泊所で共に過ごすのであるからお互いを知る機会にもなる。氏名と所属学部、国籍、滞在期間など最低限の情報の共有が望ましい。こうしたことがなされれば、例えば宿泊者が月に一度一同に会して自己紹介し、情報交換や将来のネットワーク形成に役立つ。

歓迎会や送別会が新たな相互理解の機会を生む。

3) 共同利用の洗濯機や冷蔵庫が故障、あるいは設備の一部が損壊していても、その旨連絡する手段方法が決まっていないと、作動すると思って洗濯物を入れたが1時間たっても洗濯されていない等ということが生じる。速やかにそうした情報をどこに伝えるかを明確にしておく必要がある。報告と連絡の重要性の確認が必要である。

4) 宿舎の隣はバスケットボールのコートであり、夜間も照明灯をつけて運動する学生も多い。しかしその照明灯のスイッチ操作を誤ると宿舎全体の電源が落ちる。そうした事を回避するために、スイッチの操作法を記した注意書きが必要である。この程度の事ならということで素早く制作し壁に貼り付けた。しかし個々で重要なのは、そうしたことについて絶えず担当部局に「報告」しておくことである。勝手にやることは許されない。全てにおいてこの心得が必要である。(写真参照)

5) 多人数が一緒の施設で生活するのであるから、種々の不便が生じる。洗濯の時間やテレビ視聴の時間、またどのチャンネルをどの時間から見たいなど、すべてが思うようには行かない。まさに国際法の順守である。個々で言う国際法は大学が定めた規則である。それ以外は国際的常識ということになるが、この認識は一定していない。一例は共同の施設に対する認識である。共同(公共)だから「誰が使っても良い」と言う考えと共同だから「誰もが使わない」という考え方である。かつて途上段階の国では公道の街路樹に物干し竿やロープを結び、個人が布団や洗濯物を干している光景を見かけた。公共の施設ともなれば他人に対する「美的配慮」、個人が勝手に特定の場所を専有する行動に配慮するのは当然である。狭い意味での国際化でもある。タイは熱帯に位置し日中は極めて暑い。さんさんと照りつける太陽のもとで乾かせば速く乾く。しかしどこに干すかとなるとどこでも良いわけではない。公共の施設としての美観を損ねない対応が必要である。玄関にロープを張り布団や衣類、下着までも並べ立てるのはどうか、と言っても週に一度なら許されるのではと言う考えも出てくる。中にはそうしたことに配慮し裏庭の広場に干す者もいる。言い難いが言うべきか、僅かなことだから言わざるべきかである。

最後に本報の論点を記す。すなわち何が筆者の「チェンマイ大学での貢献か」という点については次のようである。すなわち、施設と宿泊者に可能な限り目を配り、不都合な点の改善協力という点である。これ以外にも夏にはバスケットボール競技コート周りの草刈りや駐車場の雑木の刈り取りも状況に応じてやってきた。宿泊所に隣接の食堂(Cafeteria)の建替えが1年以上も続いた時には工事区域で立ち入りが制限され、側溝などの排水も悪くなる。雨季には降った雨水が円滑に排水されない。小型の水中ポンプを買い込んで強制的排水にも協力した。さもないとバスケットボールコートの排水が悪く、雨が上がってもすぐには使用できない。またコート脇の道を歩くにも水たまりがあって歩きにくい。シャベルに鎌、排水用ホース、ポンプ駆動のための電源コードは購入したが、幸いにも企業から頂いた草刈機があったので、暇のあるときは積極的に健康維持を謳い文句に刈り取り作業に精を出した。



図1 籠球コートの照明スイッチ操作説明



図2 裏庭広場の洗濯物での乾燥



図3 宿泊所玄関前での洗濯物の乾燥

